

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302644		
法人名	医療法人 恕心会		
事業所名	グループホームぶなの森 2階		
所在地	郡山市八山田6丁目45		
自己評価作成日	平成29年 7月19日	評価結果市町村受理日	平成29年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービスとしてあるべき姿をふまえた理念を全職員で共有すると共に、ユニット間でも年間目標を掲げ、更なるケアの質の向上を目指し日々チームで取り組んでいる。入居様が周囲と様々な関係を持ちながらいきいきと生活を送れるよう他職種やご家族、馴染みの方や地域住民の協力を得ながらサポートしている。また共同生活の中でも一人一人の生活の場として個性やその方の思いを尊重し、出来る限り自由に、安心感、信頼感を感じていただけるよう、スタッフ間で対応を創意工夫している。入居者様それぞれの「できること」「心地良いこと」を日常のケアに取り入れれたり、環境整備に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしてあるべき姿をふまえて掲げられた理念が事務所内、リビングに常に掲示しており、全職員で共有している。またその理念をもとに年度始めには各ユニットで年間目標を立て達成に向けて日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から散歩や買い物等で外出した際に地域の方々と挨拶や言葉を交わしている。また町内会に加入しておりクリーン作戦や地域の祭り、敬老会等行事に出来るだけ参加するようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内の行事にボランティアを利用したり、中学生の職場体験を受け入れる等認知症高齢者やグループホームについて、実際に交流を図りながら理解を広められるような活動に意欲的に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催しており、GHの取組状況等報告している。民生委員、地域包括、介護相談員の他に、より多くのご家族に参加して頂けるよう面会時等に呼び掛けている。GHの課題について意見、提案を頂きその後の取組みに活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	諸々の手続きや生活保護を受けている入居者様の件等で日頃から連絡を取り合い、協力体制を築いている。月2回介護相談員の来所があり、利用者本位のケアやGHの取組状況について情報交換、助言を頂いたりしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面の理由から玄関は施錠していることが多いが、希望時はいつでも開錠し自由な行動を妨げないように配慮している。入居者様の意思、自由を尊重したケアを行うが故に生じるリスクについてご家族に丁寧に説明し了承頂いている。全職員が身体拘束にならぬよう声掛けから気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修で各々が虐待のないケアについて理解を深め、再認識する機会が設けられている。また日頃から虐待になりうるような対応が行われる事がないよう、スタッフ間で確認、相談しながらケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じていつでも活用できるように管理者が準備を整えている。また職員各々で理解を深めるよう自主学習に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時やケア内容、制度等の変更、改定等の際には口頭、文書にて説明を行っている。入居者様の心身状態により説明は主にご家族に向けたものだが、利用者様本人主体の考え方で、不安や疑問が軽減、解消されるような説明に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様がいつでも気軽に意見や要望を表せるような環境作り、コミュニケーションに努めている。それらは内容に合わせてカンファレンスや運営推進会議で取り上げ、検討、サービスの向上につなげている。苦情の対応について、受け付けた者が報告書をあげ、改善策を全スタッフで話し合い実践している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1~2回のペースで個人面談が行われており、その他でも必要に応じて面談の機会が設けられている。また普段から管理者に意見や提案をしやすい環境が整えられており、ケアの質の向上、職場環境の改善等につなげられている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的にGHIに足を運び会議に出席したりホーム内の状況を自身の目で把握している。またスタッフがやりがいを感じながら働けるようアドバイス等している。出産、育児休暇等も整備されておりスタッフの生活変化にも配慮されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修について、事前にアンケートが実施され、スタッフの希望とケアの力量や勤続年数等に応じたものを受講する機会が設けられている。自己評価を取り入れスタッフ個々で課題を設定し、時に反省したり学びながら、常にスキルアップに向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修はスタッフの希望を取った上で参加することで他事業者との交流や情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査を行っており、入所後はセンター方式シートを活用しご本人の趣味や嗜好等スタッフ全体で把握、共有している。困りごとや心配事を見逃さぬよう小まめなコミュニケーション、心身状態の観察に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなく実態調査や面会時等にご家族の思いを傾聴し、それをふまえ今後どのようなケアを行っていくのか丁寧に説明したり共に考えながら信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の希望に基づき心身の状況を見極め、その時々で必要なサービスを提供できるよう努めている。また適宜他事業所との調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式シート等の情報に基づいてご本人が好きなお事、出来そうな事を日々のケアに取り入れている。また入居者様から教えて頂いたり一緒に行くことで同じ時間を過ごせるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告等でご本人の体調や日々の活動等詳細に報告している。またご本人から希望があった時にはその都度ご家族に連絡している。また行事に参加して頂く等協力が得られるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が入居前に過ごした思い出の場所や兄弟姉妹に会いに行ったり連絡が取れるよう、外出援助や手紙のやり取り等支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し支援している。入居者様同士の言動で口論になることもあるが、スタッフが仲裁に入り関係性の悪化防止や怒りの軽減に努めている。また入居者様一人一人が自ら関わりをもって生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族が他入居者様やスタッフに会いに来て下さったり、衣類や食べ物等現入居者様の為に持参して下さい。またイベントがある時はお声がけしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々話を傾聴したり行動を観察し、ご本人、ご家族、スタッフで話し合い、それぞれの思いや希望を出来る限り実現出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から伺った話や事前情報等からこれまでの暮らしの把握に努めている。また馴染みだった場所や店に気分転換に外出する機会を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックや生活の様子、行動言動等日々の関わりの中で得た情報から心身状態の変化、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は毎月担当スタッフがモニタリングを行っている。ご家族には面会時や毎月のお手紙で現状報告を詳しく行っている。また必要時に連絡を取り合い密に情報を共有、話し合い、その時々々の状態に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や関わりを個別記録に記入し、スタッフ一人一人が確認し、情報を共有している。またそこでの気づき等をその後のケアや介護計画に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議には地域包括にも参加頂いており、事例に対しての助言等を頂いている。必要時に速やかに活用できるようネットワーク作りや情報収集等に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	遠出の外出時には市のサービスを利用したり、地域行事(夏祭り、敬老会等)にも出来る限り参加している。身体機能低下予防、外部者との関係を断ち切らず精神的安定を図る事を目的に訪問マッサージを依頼し、豊かな暮らしが送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	9名全員が母体のクリニックがかかりつけ医となっており、主治医は週1回往診に訪れている。また状態変化時はその都度連絡し指示を仰いでいる。他科受診時はご家族とも連絡を取り合い、看護師、管理者から現状を伝え、それを他科Dr.にも伝達している。結果についても情報共有に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師出勤時入居者様の状態報告を行うとともに看護師も一人一人の状態確認を行っている。看護師から指示、助言を仰ぎ対応している。また急変時にも迅速に対応が出来るよう看護師は24Hオンコール体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師によるサマリー作成し、出来る限り管理者、看護師が付き添い、医療機関、ご家族と報連相行っている。またスタッフは小まめに面会に訪れ認知症の進行予防にも努めている。医療機関とは適宜連絡を取り合い情報交換行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り指針、看取り体制について説明し同意を頂いている。終末期にはご家族と連絡を密にし、その時々で出来る限り最良なケアをチームで提供できるよう努めている。またご家族の思いも重く受け止め、共に終末ケアに取り組んでいけるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師不在時や夜間の急変時に速やかに対応出来るよう個別の緊急マニュアルを作成している。応急手当や初期対応訓練は定期的には行っていないので、今後取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に一度避難訓練を行っている。また通報訓練や消火器訓練も消防署員や消防設備の方から指導を受け適宜行っている。今年度は市の実施指導時の助言もあり、水害想定での避難訓練も取り入れている。地域の集会や奉仕作業等の参加時には、災害時の協力依頼も行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の人格、プライバシーを尊重した声掛けや介助を実践しているが時に適切でない場合もある為、その都度スタッフ間で話し合ったり各々で反省し最適な対応が出来るよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	極力入居者様が自己決定出来るよう声掛けを工夫している。また、日常的に思いや希望を表しやすいよう傾聴する姿勢を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活ペースを把握し、自由な行動を尊重している。共同生活の場であるが故に時に希望の実現が難しい時もあるが、丁寧に説明し理解頂くと共に、出来る限り希望にそえるよう対応を工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容、更衣の際服を選んで頂いたり一緒に選んでいる。理美容室への外出援助や、それが難しい方にはGH内で散髪や毛染めの介助をしている。お化粧を楽しむ機会を日常的に設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材の買い出し、調理、食器拭き等日頃から一緒に行っている。日々の食生活を観察、把握し、状態に応じて好みの物、食べられそうな物(お酒、お菓子等)提供し食を楽しんで頂けるよう工夫している。今後改めて嗜好調査を行い、楽しい食事の更なる向上に努めていく。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものを取り入れながら給食委員が献立を作成している。ドレッシング、カスピ海ヨーグルト、ゼリー等手作りを心がけている。食事量にムラがある方へは時間をずらして促してみたり、摂取しやすそうなものを提供する等工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。なるべく自力で行って頂いているが、困難な場合は介助し口内の清潔保持に努めている。また必要に応じて洗口液や口腔スポンジ等も活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所後2週間生活リズムパターンシートを作成し排泄状況を把握している。排泄パターンが変化した際はカンファレンス等で促す時間帯や状態に応じたパッド類の使用等を検討している。極力自立に向けた排泄が行えるような考え方で支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きを良くするカスピ海ヨーグルトにオリゴ糖を入れて1日1回摂取して頂いている。また水分を多めに摂って頂いたり、適度な運動を取り入れたりして自然排便を促している。必要に応じて下剤での排便調節も行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後どちらか決めて頂き出来るだけ希望にそった時間に入浴して頂いている。湯加減は個々の好みに合わせ小まめに調節している。入浴困難な状況の方には無理に促さず足浴や清拭で対応する等工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムパターンシートを2週間分作成し生活習慣を把握している。日中夜間共に一人一人好きな時間に休んで頂けるよう支援している。夜間眠れない時には温かい飲み物を提供したりスタッフの側で過ごして頂く等対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ各々が薬の目的や副作用、用法用量について把握している。服薬の間違いが無いよう介助時スタッフ同士声を掛け合い十分注意している。内服薬の変更による心身状態への影響を注意深く観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族より生活歴や嗜好品、趣味等を伺い、それを交えた会話でコミュニケーションを図っている。一人一人が出来る事を活かした作業(家事手伝いやレクリエーション)を促して日課となった方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出の希望があった際は出来るだけ希望にそえるよう対応している。希望時以外でも買い物や散歩等日常的に外出する機会を設けている。ご家族との外出のサポートも行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のお小遣いは基本的にGHで管理しているが、希望時にはいつでも買い物が出る事を伝えている。毎月決められた範囲内でやりくりしたいという方には残金を小まめにお知らせしたり、必要に応じて買い物をお手伝いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より電話があった時には出来るだけご本人と直接話せるようお手伝いしている。また入居者様から電話の希望があった時にはご家族様が可能な限りお繋ぎしている。手紙のやり取りもご本人の意向に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた貼り絵等入居者様と作成したものを掲示したり、花を飾ったりと、季節感を感じて頂けるよう取り組んでいる。入居者様の好みの音楽やテレビ鑑賞の時間を日々取り入れ、癒されたり、気分が明るくなるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルで一緒に過ごして頂いたりソファで休んで頂く等個々の気分に合わせて自由に過ごして頂いている。また移動式のミニテーブルを用い好きなテレビをじっくり見て頂くなど、共有空間の中でも独りになれる場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご本人の状態に応じてご家族を含めご本人と相談しながら家具等を配置し、入居前に使用していた家具や小物、ご家族との写真を掲示したりと居心地よく安心して過ごしていただけるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの認識が難しい方の為に分かりやすく目印をつけている。居室の認識が難しい方には廊下に誘導テープや表札を貼ったり、居室内の配置を変更したりと様々な工夫をしている。		